

SAMの実施にあたって何をすべきか

ソフトウェア資産管理評価認定協会

理事 森田 聡子

2016年6月10日

本資料の扱いについて

- 本資料の著作権は、すべて一般財団法人ソフトウェア資産管理評価認定協会（以下「SAMAC」という）が保有します
- 本資料は、SAMACからの書面による事前の承諾なく、この資料のいかなる部分についても、また、いかなる形式、あるいは、写真等の複製を含む一切の電子的・機械的な方法のいずれによっても、複製、利用、転載、アップロードすることはできません
本資料を本セッションの参加者以外の第三者の目に触れる形で、いかなる形式でも、いかなる部分であっても、あるいは、写真等の複製を含む一切の電子的・機械的な方法のいずれによっても、複製、利用、転載する場合には、本資料の一部または全部に関わらず、事前にSAMACから書面による了承を得ることが必要です
- 事前にSAMACからの書面による了承を得ていたとしても、第三者に対して、有償で本資料のいかなる部分についても、貸与・譲渡することはできません

利用ソフトウェア分析

利用ソフトウェア分析の方法・内容

「どんなソフトウェアがどの程度利用されているか」をインベントリ結果とソフトウェア辞書^{*1}を利用して分析するものです。

【主な分析内容】

- ✓ どのようなソフトウェアが利用されているか
- ✓ 管理・把握を厳格に行うべきソフトウェアはどれか
- ✓ 危険なソフトウェアは利用されていないか
- ✓ インストールすべきソフトウェアがインストールされているか
- ✓ エディションは統一されているか
- ✓ ライセンスカウントが難しいソフトウェアがインストールされているか
- ✓ 標準となりうるソフトウェアはどれか

*1 SAMACソフトウェア辞書：

- ・ SAMAC メンバーにおいて実際に利活用されているソフトウェアの識別情報を精査、蓄積したもの
- ・ 取得したインベントリ情報から、ソフトウェア資産管理 (SAM) に必要な項目を判別・突合せ・生成することが可能
- ・ 定期的に利用者から更新情報を収集し、メンテナンスを実施するため、最新情報でマッチングすることが可能

レポート内容 抜粋 (SAMPLE)

【ソフトウェア調査対象概要】

保有ハードウェア数（4,380台）に対する利用ソフトウェア種類数につきましては、他社平均3.47倍に対し0.43倍と、他社平均に比べ、非常に少ない種類となっており、HOTFIXを除いた利用ソフトウェアの種類で比較しても、他社平均2.70倍のところ本データでは0.34倍と、同じく、他社平均比非常に低くなっています。
貴社対象PCについては、ある程度統制の利いた運用になっているものと想定いたします。

【調査対象数】

PC台数
4,380機器

	種類	ソフトウェア種類/機器数	他社平均
ソフトウェア種類	1,883種類	0.43倍	3.47倍
除くMS等パッチ	1,482種類	0.34倍	2.70倍

レポート内容 抜粋 (SAMPLE)

【導入比率別分布】

一般的に全体のハードウェア台数の概ね1%以上で利用されているソフトウェアの種類は、SAMを未導入の組織で全体の6%~7%程度であり、SAMを導入している組織では、20%を超えるようになります。

貴社では1%以上で使用されているソフトウェア種類の数には16.1%となっており、SAM未導入の組織平均よりも大幅に高く、SAM導入組織平均よりも低い状況にあります。

しかしながら、全体の1%以下となるハードウェアで利用されているソフトウェアが、利用種類全体の8割強にのぼっており、特に有償ソフトウェア並びに辞書未登録については全体の約95%の種類がこのレンジで利用されているという状況から、現行の利用状況に関する実態検証をすることが望まれます。

ソフトウェア種別	合計	インストール台数 (単位: 台)			
		6~10台	11~40台	41~100台	101台~
有償ソフトウェア	211	160	37	5	9
フリーウェア	202	156	15	9	22
ドライバ・ユーティリティ等	778	556	117	37	68
HOTFIX	401	234	33	52	82
アドウェア系	2	2	0	0	0
不明	57	42	7	2	6
文字化け	1	0	0	0	1
辞書未登録	231	175	45	6	5
合計	1,883	1,325	254	111	193
比率	100.0%	70.4%	13.5%	5.9%	10.2%

83.9% (非標準ソフトウェア候補)

16.1% (標準ソフトウェア候補)

レポート内容 抜粋 (SAMPLE)

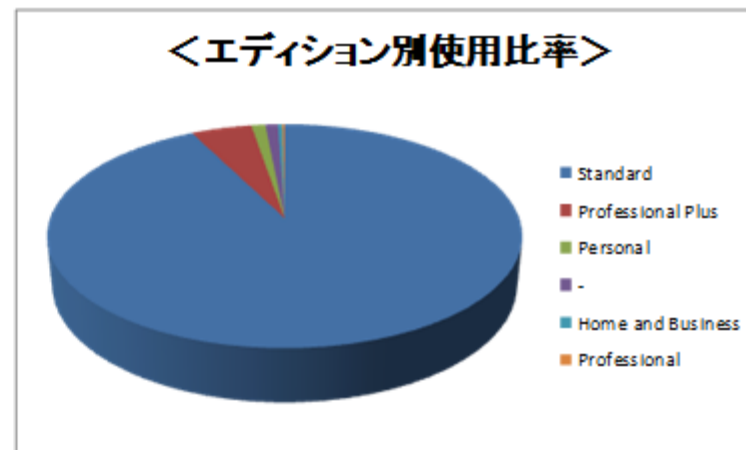
【Microsoft社 Office製品一覧】

Microsoft社のOfficeは、主にStandardで統一されており、Volume Licenseの調達数と下表の利用数に齟齬がなければ、特に大きな問題はない状況と料します。

ただし、一部 Microsoft Office Access が単体で利用されていることから、Professionalへの切り替え調達も検討されることを推奨いたします。

また、PowerPoint が単体でインストールされているマシンがありますが、これはPersonal の存在と合わせ、プリインストールである可能性がありますので、ライセンス部材の保有状況について、把握しておくことを推奨いたします。

エイリアス	バージョン	エディション	種別	使用数の合計
Office	2010	-	有償ソフトウェア	13
Office	2010	Home and Business	有償ソフトウェア	11
Office	2013	Home and Business	有償ソフトウェア	5
Office	2007	Personal	有償ソフトウェア	3
Office	2010	Personal	有償ソフトウェア	35
Office	2013	Personal	有償ソフトウェア	12
Office	2010	Professional	有償ソフトウェア	5
Office	2013	Professional	有償ソフトウェア	3
Office	2010	Professional Plus	有償ソフトウェア	215
Office	2013	Professional Plus	有償ソフトウェア	2
Office	2007	Standard	有償ソフトウェア	296
Office	2010	Standard	有償ソフトウェア	3775
Office	2013	Standard	有償ソフトウェア	2
Office Access	2007	-	有償ソフトウェア	22
Office Access	2010	-	有償ソフトウェア	74
Office Access	2013	-	有償ソフトウェア	17
Office Excel	2007	-	有償ソフトウェア	1
Office Excel	2013	-	有償ソフトウェア	1
Office FrontPage	2003	-	有償ソフトウェア	2
Office PowerPoint	2007	-	有償ソフトウェア	2
Office PowerPoint	2010	-	有償ソフトウェア	6
Office PowerPoint	2013	-	有償ソフトウェア	2
Office Word	2013	-	有償ソフトウェア	1



利用ソフトウェア分析の活用

IT資産管理を導入していない企業の場合、利用ソフトウェアの種類は保有ハードウェア数の2.5倍～3倍と言われており、その中には危険なソフトウェアが潜んでいることも多く見受けられます。

利用ソフトウェアの状況を可視化することで、セキュリティ面、コンプライアンス面でのリスクを把握することができ、まずはどこから確認・管理をするのがよいのか等の検討が進められる状態になります。

また、自社の導入状況が具体的な数値で表されるため、計画の裏付け資料としても活用いただけます。

<<ケース1>>

リスクのある危険なソフトウェアをまずは排除したい（セキュリティ）

<<ケース2>>

契約の見直し等を検討するのに利用ソフトウェア数を把握したい（コストダウン）

成熟度評価

成熟度評価の方法・内容

ヒヤリングと評価に必要な確認用帳票提示いただくことにより、ソフトウェア資産管理基準と評価基準に従って、成熟度モデルを利用し組織のSAMの状況を客観的指標で評価します。

【管理項目（評価項目）】

- 1.ソフトウェア資産管理の方針・規程の整備
- 2.ソフトウェア資産管理体制の整備
- 3.ソフトウェア資産管理のコンピテンシーの確立維持
- 4.保有ライセンスの把握、証明
- 5.導入ソフトウェアの把握
- 6.コストの最適化
- 7.情報セキュリティ要求事項の順守
- 8.ソフトウェア資産管理運用プロセス
- 9.ライフサイクルプロセスインターフェース

成熟度モデルの考え方

評価基準（成熟度モデル）では、管理状態についてレベル0からレベル5までの6段階の成熟度で評価する。

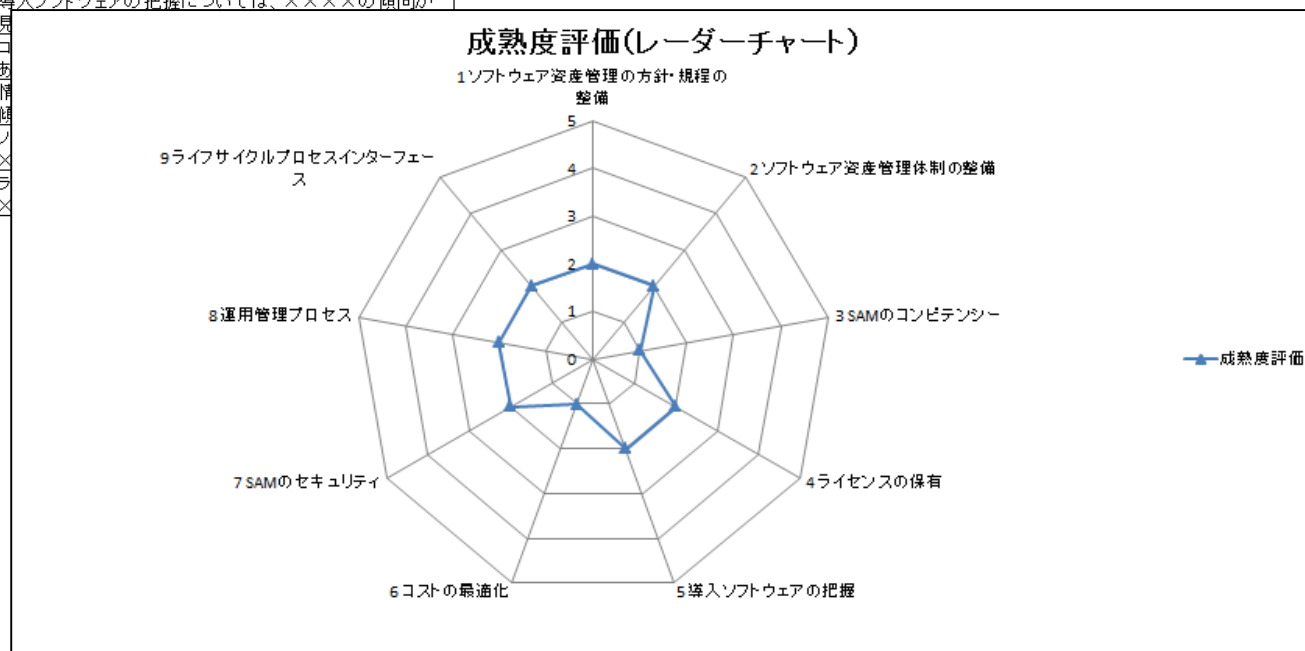
【基本的な考え方】

- レベル0：管理が存在しない段階
管理を全く実施していない。
- レベル1：初期/場当たりな段階
組織的でなく、担当者個人に依存して、管理を実施している
- レベル2：反復可能な段階
ある程度、組織的な体制があり、継続して管理を実施している
- レベル3：定義されている段階
組織全体の方針・規程、管理体制等が適切に定められており、それらの内容に重大な欠陥はない
- レベル4：管理されている段階
定められた方針・規程、管理体制等に従って管理が実施されていることをモニタリングしている
- レベル5：最適化されている段階
ソフトウェア資産管理を取り巻く環境の変化に対応し、最適な管理を実施するため、随時および定期的に、ソフトウェア資産管理を見直している

評価レポート内容 抜粋 (SAMPLE)

【分析結果総合評価とレーダーチャート】

NO	管理目標	成熟度評価	改善ポイント
1	ソフトウェア資産管理の方針・規程の整備	2	ソフトウェア資産管理の方針規程については、ソフトウェア資産管理の〇〇〇について、×××ができていないと考えられるため、〇〇〇規程の整備について改善ポイントがあると考えられる。
2	ソフトウェア資産管理体制の整備	2	ソフトウェア資産管理体制の整備については、××××の傾向がみられるため、体制についても改善ポイントがあると考えられる。
3	SAMのコンピテンシーの確立維持	1	ソフトウェア資産管理のコンピテンシーの確立維持については、未整備の状態であると想定される。
4	ライセンスの保有・証明	2	保有ライセンスの把握・証明については、×××のために改善ポイントがあると考えられる
5	導入ソフトウェアの把握	2	導入ソフトウェアの把握については、××××の傾向が
6	コストの最適化	1	
7	SAMのセキュリティ要求事項の順守	2	
8	運用管理プロセス	2	
9	ライフサイクルプロセスインターフェース	2	



成熟度評価レポートの活用

組織の問題点が、ISO/IEC19770-1や管理基準の要求事項を根拠に文書化されて明らかになるため、要求事項単位で、採るべき対策が明確になります。

また、改善のためのポイントも指摘されるため、対策の設定も容易になり速やかに実行に移すことができると考えています。

- 現状実施しているソフトウェア資産管理は適切なのか、何か問題はないのか
- 現状実施しているソフトウェア資産管理の管理レベルは高いのか、低いのか
- どこまで管理すればよいのか
- 現状実施しているソフトウェア資産管理をどのように改善すべきか

まとめ

- ◆ SAMの実施に当たっては、まずは現状を把握する（可視化する）ことが必要

それによって初めて自分たちが何をすべきかが把握できると考えます。
各社により、状況は異なるので、皆がやっている方法が自社にとって最適とは限りません。

- ◆ 本格的な取組みには、経営層への起案が必要だが必要性を理解いただくためには、裏付け資料が必要



まずは、利用ソフトウェア分析や、成熟度評価を活用いただければと思います。

SAMAC

一般社団法人 ソフトウェア資産管理評価認定協会